



No. 18

39・2・1

兵庫縣赤粟郡
山崎町教育委員会内
赤粟郷土研究会
電話 750 番

赤粟郡の近世産業

(二)

宇野正暎

三、赤粟鉄の生産と流通

赤粟鉄は千種鉄とも呼ばれて、本郡の特産品の才一であつた。鉄砂(テシヤ)(砂鉄のこと)をいう播州鉄山の独得の呼び方の産地の郡北で、かつ木炭の入手しやすい事の中要から奥地の谷谷で生産されて、牛馬背を利用して出石に運び、更に高瀬舟で網干―大阪或は、白浜地方に送り出された。

(A) 赤粟鉄の産額

1. 「赤粟郡誌」(宝永五年著)によると「富士野」「音水」「鍵掛」「都多」の各所から尅万駄を出したとある。
2. 「千種屋手控帳」(元文元年―宝歴四年間記載)には領主の下問に答えて

御尋ニ付奉申上候御事

一、先年鉄山六ツ吹(註)之節 捌方時節宜一ケ年鉄目何ほと
 払直段尅貫目に付何ほと在文候哉と御尋為迎出奉承知

候

一、十八年以前亥年より駒前山六ツ吹之御請負ニ而相稼申候 此節 売鉄高 三千百束 壹束ニ付鉄目十六貫匁 但 直段之義 大阪問屋へ指廻申候其節ニ高下御座候ニ付 高直之仕切直段と下直(仕切直段と云付指廻申候 尤上中下之品御座候 右之内

上鉄 二千百束

直段 高値五十二匁 鉄目一貫目ニ付三匁三分

下値四十六匁 二匁九分八厘

中铁 六百廿束

直段 高値五十匁八分 三匁一分七厘

下値四十四匁 二匁七分五厘

下鉄 三百八十束

直段 高値三十二匁 二匁

下値二十六匁 一匁六分三厘

一、近年捌方悪敷ニ而一ケ年鉄目何ほと払直段何程在之候と御尋被為而出奉承知候

十五ヶ年以前子年より瀬戸赤西山六ツ吹之御請負ニ而相稼罷在候近年ハ鉄直段下直に御座候 大阪表捌方悪敷御座候此節売鉄高二千二百八十束 但一束鉄目十六貫匁入但直段之義其節之高下御座候付高値の仕切直段ト下直之仕切直段と云付指廻申候 尤上
 尤上中下之品御座候 右之内

上鉄 千四百四十束

直段 一束ニ付四拾二匁一分 鉄目一貫匁ニ付

二匁六分三厘

三拾八匁

二匁三分七厘余

中鉄 六百九拾束

直段 一束ニ付四拾匁一分

二匁五分六厘

三拾七匁

二匁三分一厘

下鉄 四百五十束

直段 一束ニ付

廿六匁

一匁六分二厘

廿四匁

一匁五分

一、唯今文字銀通用ニ罷成ニ而諸色共上リ 鉄直段と只

今ニ而ノ上ノ鉄一束ニ付仕切直段五十五匁一分一厘より六拾匁七分五厘正但一貫目ニ付三匁四分五厘より三匁七分七厘迄に相当申候

一、六ッ吹ニメ一ヶ年炭何程口入用ニ成ト御尋被為仰出奉承知候

一、七ヶ年吹炭凡廿四万貫目遣申候

一、四ッ吹ニベ一ヶ年炭何程入用ニ成ト御尋被為御出奉承知候

一、七ヶ年分吹炭凡拾六万貫目遣申候

右の通御尋ニ付奉申上候 己上

元文元辰十月

源 右 衛 門

御領地御支配所

とあつて、駒前山三一〇〇束、赤西山二二八〇束となり、一束十六貫であるから駒前山四九六〇貫、赤西山三六、四八〇貫の生産量となる。又享保四、五年には三方川流域（揖保川支流）に「榎ノ木」鉄山も稼行中であつたが、生産量不明。上記の「駒前」「赤西」のほほ同量と考えて差支えはなからう。

3 「鉄針金請払之帳」（天保十五年正月吉日、成田屋宗十郎）成田屋は揖保川河口の問題で、天保十五年一ヶ年の記録から推して「天見家鉄山」稼行年代表から見ても「高羅鉄山」の何れか、どちらにしても千種川流域の近接した鉄山のものとなりうる。又、銘柄の記入はあるが重量の記入（一束に付）を一部剝くが「千種屋手控帳」や「長井家文書」の「鉄預之支、上一鉄拾二束也但一束ニ付十六貫目入……中略……文政六年五月」より推して十六貫として計算するとI表の通りである。又、天保十五年には、揖保川支流の引原川流域「鍵掛山」も稼行していたから、才I表の二部には見積り得ると思われる。

(3) (I表) 鉄針金請払帳 (天保十五年) 成田屋宗十郎

受入月	銘柄	針						金				
		高	刈	12	4	高12	高4	全	全	交	全	札落
1月		64束	46					7丸	11丸	4丸	0	0
2		120	87					9	10	8	0	0
3		107	52					3	7	4	0	0
4		75	46					8	15	11	2	0
5												
6		6		54	18	24	8					
7				45	15			6	2	0	3	13
8		3	21	24	8			8	1	11	12	0
9		26	13					2	0	0	4	8
10		131	92					10	6	12	2	0
11		150	85					10	0	6	7	0
12		206	190					8	3	12	10	0
計		888	702	123	41	24	8	71	55	68	40	21
重量	27.400貫						(針金の重量不明)					

II表 天児家山鉄荷請払帳 (家政四年) 成田屋次郎兵衛

受入月	銘柄	高	刈上	刈	上12	針金	釘
春	1月	10束	6	22		4丸	
	2	30	122	160		17	
	3	3	14	16		38	
	4	34	193	183		21	1
	5	21	56	57	8	25	2
小計		98	391	438	8	105	
嘴崎出	国5				24		
	6		3			18	
	7	7	41	51	187	13	
	8				48	23	1
小計		7	44	51	259	54	
秋	8	5	24	17			
	9	8	18	37		2	
	10	45	104	164		48	2
	11	26	116	141		15	
	12	48	91	182		44	3
小計		132	353	541		109	
総計		237	788	1030	267	268	9

4. 「天児家山鉄荷請払帳」安政四年正月吉祥日、量目の記入がないが、II表中「嘴崎」出の小計中に次の事がある。

嘴崎出、右請払、十二貫鉄、三六一束送方
 刈 一七八束
 刈上 一四六束
 高 三七束
 残荷なし

これより判断すると、刈、刈上、高共に十二貫のものと考えられるので、二七、八六四貫となる。安政四年には外に「鍵掛山」も稼行中であつたから、二倍の産鉄量は下らないと思はれる。

山崎町野から経塚を発見

肥塚 義 彦

山崎町野二二番地の二、角江房治氏所有の田より経塚一基が見つかった。同氏が田のあせ道を拡張中のところ、昔から「ここを掘ればケガをする」とか「たゞりがある」と云われていた場所に行きあたるので、何があるのが調べてほしいといわれたので、調査をしたところ、みつかったものである。経塚というのは経文を書写供養し地中に埋めて封土を築いたもので、釈迦の教え、すなわち經典は時を経ると衰微するが、五十六億七千万年のちに彌勒菩薩が第二の釈迦としてこの世に現われる。その時までこの世に經典を留めておきたいとの思想にもとづいて、前述の如く地中に埋めたものである。

この思想は日本では平安時代の中期ごろから現われだした。現在発見されている一番古いものは寛弘四年（一〇〇四年）の藤原道長の吉野金峯山の埋経で、この思想は近代まで続いたのである。しかし近代になると、単なる追善供養のために行なわれるようにもなりだした。

納める經典は多くは法華經である。紙本に書写して、経筒に入れて、これをさらに外容器に納め、石、瓦などで築城した小槨へ納めるのが普通である。

今回、発見された野の経塚は「浄土三部經（大無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經）を河原石に書写している。

（詳細は次号による）

初詣

安井 寅 一

一月五日うらうらと春めく日和の中を伏見稻荷社に初詣して京都まで足を延ばして、大徳寺の庭園巡りをなし、岩の雅趣と苔と白砂の美しさを満喫してから、新烏丸通丸田町下ルにある下御霊社境内鎮座の垂加社に参拝した。垂加社は山崎神社の老家である。宮司出雲路敬豊氏と面会書院に招かれて、關齋先生の話しを聞かして貰った。熱意をこめた御説には頭が下つた。辞去するに当り、毎年二月二十二日に当社にて關齋先生の染筆及著書等一切の文献を公開展観されるとの事で、有志の観覧を希望して居るとの言伝があつた。



真説 夜泣石

堀 口 春 夫

私の少年の頃、遠藤のおばあちゃんによく昔話を聞いたものである。夜泣石の話もその内の一つで、昭和の初め頃そのときもう八十五・六才であつたろう。その聞き覚えから拾い出して、おばあさんの話を紹介してみよう。もつとも、その話は昔はあんまり大びらに言えなんだから、ほんの近所の人位しか知らなんだ。それに崇りか恐ろしいということのためらいながら話してくれたものである。

◎

私（おばあさん）の祖母さんの若い頃、まだ富和から遠藤へ嫁いで間のない時分、うちの隣りに丹羽様があつて、そこへ赤穂の家中からそれはそれは奇麗な娘さんが来ていられた。三右エ門様の姉様の娘とかで、お里さんといつた。おとなしくて、特に目もと千両の値打があるなんて近所の評判があつた。どこか山崎で世話してあげたらうちでも相談し、隣の三右エ門様もそのつもりらしく、あの娘は赤穂の御殿へ上げていたが、とんだ濡衣をきせられて、人の口に戸は立てられぬので、姉と義兄と相談して結局ここへよこしたもんだ。どこか良縁があつたら頼みますと言われたい。うちでもあのおとなしい娘さんに何故浮名が立つ

たか、大方人々の嫉みだらうと言いつついた。

お里さんは山崎に知り合いもなく、家にひとり淋しそりだつたのでよく話相手になつたり、一度は此地の滝や段の観音様へ皆と案内したげたこともある。時々、裏木戸から散歩に出て、野の花を摘んで来たり、時にはうちへも持つて来て下さつた。ところがそのお里さんが、いつの間にか小野の伊織様と仲がよいと人の噂に立つようになつた。この事はうちの人も心配して三右エ門様に注意したりしたものだ。小野様は、御家老で家格も良かったし、伊織様には武間様の仲人で舟木の娘さんとの話もあることだし、三右エ門様も当惑して、近日中に赤穂へ帰したいと言われていた。

ところが冬の近い或る朝お里さんが、新門の外の橋の上で殺されているのを発見、その日の夜明けに富和のおじさんが馬で巡視されたとき、門番の報告で現状へ行かれお里さんと知れたもの。吟味役の児島のおじさんと検視の結果



スヒロ
材マツ

老

松

老松酒造
有限会社



坪の家具センター 250 青柳家具

山崎本町通 電一三二



一応内密にと言うことになつたが、近所の人にかくすことは出来なかつたらしい。誰が殺したか、全然見当もつかずにいる内に、仲のよかつた小野の伊織さんが間もなくぼつくり死んであつた。小野の家人の話では、お里さんの死後伊織様は、座敷にこもつて御飯もろくろく食べなかつたとか。私は自殺したのではないかと思つた。

これについても、近所の人はおかしな事よと噂をしていたところ、小野権太夫様が丹羽様のお屋敷へ来られ一部始終を打明けてお話になり、下手人は悴であつたと手をついてあやまられた。そしてこの事は何分内分にとのことであつたと、その後の伊織の死は呪いずやとか、あれは自殺じやとか、中々色々な取沙汰がされていた。

それから大部後のことじやろか、誰か知らんが東家中のどこかの壁に張り紙したものがあつた。富和のおじさんがひきむしつてしまたんやが、あんまりな事書いていたので私も見せてもらつた。物好きな人がそれを写して蔭で口に

ていたので、中々内緒にならず町中の人に知れて、石が泣くなどといいだしたもので。本当は石が泣くんやのうて、妙勝寺の木のむくの木で、いおりこいいおりこいとみみづくが鳴きよつたんや。お里さんも気の毒な人やつた。

◎

おぼあさんがタンスの引出から昔の張紙の文句の写しを出してもらつたが、古い反古紙のようなものに書かれ、隅に文化四酉の年十月と記されていた。その文句は次のとおり、

赤穂娘はなぜ死んだ

小野の伊織を嫌ふてか

なんできらをぞあの仲じやのに

きついでてごにしかられて

なまきさかれてその上に

橋の上にて殺された

梶をうらんだ娘のさとは

小野の恨みをはらさ丹羽

印刷は

タニグチ

ヤクバ西・TEL 6333

以下判読不明だが最後は

石が泣くのがむりかいな

江戸帰りの中間か小者の仕業かとも思われるが、随分痛烈に暴露した皮肉な落書である。私は大雲寺墓地ではからずも伊織の墓を発見、秋晴の日詣りで

石泣くと伝ふ話のかなしきよおさと伊織の恋物語り

秋空に高く澄みしか清らかにさとと伊織の恋のかなしきこの話かたりし祖母もすでに去り遠く久しき秘話となりしか

遠藤家記録によると、事件の日は文化四年十月十日未明、伊織之助は、十月十七日死去。

拓本のとり方

肥塚義 玆

一、拓本とは、石または金属類に陰刻または陽刻された文字、文様を紙に墨汁、墨肉の類で、地肌、形状、大きさをも最も正確に明瞭に原寸大に複写したものを拓本という。この方法はもと中国で発明され、わが国では細井広沢によつて紹介された東洋独特の複写方法である。はじめは子女の習字の手本などに用いられたが、最近では芸術鑑賞用として床の間などに掛けられるようになった。

戦後、飛躍的な地方史研究のブームにのつて金石文が史料として重視されるようになり、拓本のとり方も満足

に知らない人が拓本をとりだして、石碑に直接、墨をぬり、紙をあてると出来上りと考えている現状である。これは大きな間違いである。第一文字が逆文字になるし、ミカゲ石や大理石は墨がしみて、文化財を台なしにしてしまう。このせいか最近各地で拓本禁止の立て札や条例まで制定しているところが多くなつたのは残念である。どんな無名の碑でも、拓本をとるときは、その所有者や管理者の了解をとるのが常識である。この意味でも正しい拓本のとり方を覚えておくことが必要である。

二、その方法 拓本をとる方法には二つある。乾拓法と湿拓法である。

1. 乾拓法 この方法は一口でいえば子供らがよくやつている紙の上から鉛筆でこすつていゝ。あれを思えばよい。すなわち拓本をとろうと思ふものの上に、薄美濃紙、白紙、綿紙等をあてて、鉛筆又は鐘墨に胡麻油を加えて火にかけて少しやわらかくした鐘墨、または

デラックス!!
快適!!

篠陽
タクシー



山崎神姫バススク下
TEL. 57

湿拓用のタンポに墨肉をつけて紙面を摺って行くのである。この方法は湿拓法より簡単で手早く出来るという便利があるが、明瞭さを欠く点が最大の欠点であるからなるべくこの方法をさけた方がよいのである。

2. 湿拓法 普通「拓本をとる」のはこの方法をさすのである。まず拓本をとるに必要な道具と材料を記すとイ、タンポ

拓本をとるにはなくてはならないもので、拓本の上手、下手はタンポに負うところが大きなので、充分注意して作ること。使用する布は、モミまたは正絹（木綿などは糸目が粗いので不適當）で、シンには青梅綿を用いる（最近スポンジを用いたが青梅綿の方がよい）

作り方は、まず綿を布でつつみ、底面がたいらになるようにシワや凹凸をなくする。

寸法は八センチ×十センチくらいなもの、二センチ×五センチ×六センチくらいなもの各一個、二センチ×三センチくらいなもの各一個あれば充分である。

ここで充分注意して頂きたいことは、布を二枚重ねておけば、拓本をとる最中に破れても上の布をはがせばすぐ用がたりるから便利である。またタンポをしぼるとき、あまりゆるいと型がくずれるのでややきつめの方がよい。

ロ、拓墨

拓本用のチューブ入りの市販品（五十四程度）があるが、上質の墨をすつたものをビンに入れて携帯する方がよい。墨汁はダメである。

ハ、水バケ

紙をしめらすためで、タオルを使用すると便利である。この場合、タオル二本、ラシャ布（三十センチ四方ぐらい）厚手のものの方がよい。洋服バケを代用してもよい。



入学祝、就職祝には
正確で一生の記念になる

時計はツムミラで

時計 貴金属 眼鏡 津村時計店 中央商店街 電三五五



ニ、水筒

大きいものの方がよい。現地で水がないとき以外は不必要であるが、石碑の多くは屋外にあるので、実際水のある場合は少ないのでいつも用意しておく方がよいことはわかっていただけるであろう。拓本をとっている最中に水がなくならないように充分気をつけることがよい。

ホ、水入れ

弁当箱が最適である。フタは墨皿に使用します。

へ、タタキバケ

洋服ブラシが最適である。

ト、用紙

純白の画仙紙、なるべく薄手のものがよい。横六十七センチ、縦百三十センチで市販（一枚三十四程度）されている。

チ、その他

新聞紙若干、ナイフ、テープ、亀の子タワシ、ビ

ニール風呂敷等

これらの小道具は適当な木箱にでも入れておいて、いつでも持ち出せるようにしておくとう便利である。

さていよいよ本番のとり方であるが、金石碑の多くは屋外にあるため、天候が大きく影響します。雨天でも不可能でもないがなるべく見合わせた方がよい。最高の条件は気

松下齒科医院

山崎町東和通
電話 四四八番

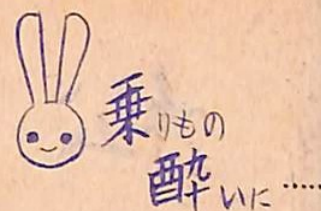
温二十度、湿度五十%、好晴、無風の日とされています。

まず碑面についているゴミなどを乾いたタワシできれいに掃除をし、足もとをよくしてから仕事にかゝります。足もとの手近かなところに道具をならべ、水皿に水を入れて墨皿に墨を入れてから、用紙を石碑類の大きさにあわせて切り、紙の表を上にして碑面にあて、タオルを水に漬けてかたくしぼり、四分の一に折り、ロール状（喫茶店を出すオシボリのようなかたち）に巻き、内部の空気を外部に出すように紙を碑面に密着させる。その際、四隅をはじめに定着させるとよい。ノリは使用せずにセロテープを使用した方がよい。

なお、セロテープで四隅をあらかじめ定着させてから、紙一面に水ハケで水をぬり、タオルを押しあてて、まんべんなく押しあてて碑文（様）に密着させるのも一方法である。

水張りが終わったならば、ラシャ布、あるいは乾いたタオルで紙面から碑文（様）の刻んであるところを押すようにして打ちこむ。水張りをする前にあらかじめ碑文のあるところをよくみておき、打ちこむときによく注意する。またタタキバケで強くたゞきながら、文字の刻面をくつきりさすのも一方法である。この場合、紙を破らないように心がけなければなりません。

これで大体、紙についての水分をとることが出来るか、水



乗りもの
酔いに……

アネンソフト
水なしでのめる
ソフト

エスエス製薬株式会社
実栗郡代理店
清水薬品の
有限会社

山崎町本町 TEL. 108



分の多いときには頃合いをみて、大タンポに墨皿に入れた墨をつけ、いま一個のタンポ（これは碑文の状況により大小をえらぶ）をすりあわせ、よくならし碑文のある所をねらい軽く打ち、順次強く打っていく。打拓というくらいでこのたたく技術が生命で、墨の分量、たたく力、速度などは何回もやってコツをおぼえなければなりません。たとえばうまくいかなくともくさらずに続けていくことです。

全般にむらなくなきたき終つたならば、上から下にかけてゆつくりと紙をはがし、これを新聞紙にはさみ、巻くなり折りたたむなりして持ちかえり、アイロンを弱火にして、裏面から当てればシワがのびます。あとは裏打ちをするなり、表装するなりして保存するのよい方法である。

この湿拓法の場合、墨を黒く塗りつぶすのを烏金拓（うこんたく）うすいろにほかすのを蟬翅拓（せんしたく）といわれているが、後者の方が仕上がりがよい。

ここで湿拓法は乾拓法にくらべて極く微細な点までも写

しとることが出来るという大きな利点がある。

以上、拓本のとり方についての略であるが、屋外で拓本をとる場合は前述のとおり、必ず所有者、管理者の了解を得ることと、とり終つたあとはきれいに片付けることはエチケットである。

なお、芸術的鑑賞用作品としてとる場合は別として、史料価値を考えて碑文を読むことを目的としてとる場合は多少のムラは気にしないことである。

緋垣一浅之丞

安井俊二

浅之丞は、明和元年（一七六四年）十月に森对馬守より表彰を受け、銀式拾枚、米十俵をもらっている。住所は、作州吉野郡田殿村で、父次郎左エ門に対しての孝養の並々ならぬことについてほめられた訳である。この浅之丞は、実栗郡安志藩の儒官であつた人である。

浅之丞の孝養については、中井竹山（一七三〇～一八〇四年）の子華孝状で有名ではあるが、中々知らない人の方が多いので紙面を借りてその概略を伝える。浅之丞は、宝暦四年（一七五四年）三十三歳のとき小笠原家を致任している。初め浅之丞は、發菴の門に入り、五、六年も懷徳書院に寄宿して、大いにその素質を見込まれ、安志藩小笠原家の儒官に推薦されたものである。だから少くとも十年は安志に勤めていたと推定される。然し父老身で、母が死去

したので、父を安志に引取りたいと。父に願つたがどうしても故郷をはなれないという。仕方なく惜しまれるのを振切つて田殿村に帰農、所謂水呑百姓になつたのである。その後十年、まことに老父に任えて至れり尽せりて妻も孝養するという条件でもらい、表彰されたときは、浅之丞四十三歳、妻二十八歳、子供は男女三人と記録されている。

浅之丞は人柄がよろしく、村方へ帰つてからも村内の者と至極懇ろにし、耕作に精出し、近年では、作方手入れの仕方などを皆、浅之丞に聞くほどである。それから近所の者が他出して留守を頼むと、夜中に寝もせず、度々見て廻るほどの実体者であつたという。

竹山居士は、安志藩致仕の状況を「同人永の暇申立てられ候。それまで首尾よく勤められ候事故、御主人にも甚御惜みなされ候へども、まことに藤樹先生暇御取り候節の如く、段々懇切に相願候、余義なき心底に相究まり候故、御聞届なされ候」と記し「学問は随分恙なく候へども、村の者などへは書物三昧の様子はあまり見せ申さず候様の心遣にて、野へ出で候にも、書物は懐中致され休息の節、人なき処にて田の畔にひろげ、ひそかに見候」と勉学の熱心さを云い、単なる一通りの孝子でないと強調「いかやうの場所に置き候ても苦しかるまじき全備の人がらと存せられ、一入感服致候。亡父此の度の義承り候はば、さぞ大慶致すべくと、これのみ遺憾の至に御座候」と亡父を偲び、亡父建設の学校四十年この方「一人にても箇様の人才を仕立て申候事、亡父は申すに及ばず、

其の外過去せられ候御方々、草葉の陰に御喜、今日皆々一同の御大慶本望の主、これに過ぎず候」と感激している。竹山は、竜野出身の中井登菴の長子、文化元年七十五才没の学者で、弟は履軒。徳川中期の大阪の儒者、懐徳書院の院長。名は積善。字は子慶。

雑誌

◎山崎闇齋神社秋季祭典は、昨年十一月二十一日午前十時、同神社で執行。井口山崎町長、前野奉賛会長、本会役員多数参列。

◎山崎高等学校地歴班では、この程「地理、歴史研究」第十一号を発行。週刊紙型四十三頁で、表紙に青蓮寺蔵の初期油絵日教聖人像を使い、内容は郡内各地の伝説を広範囲に集め、中々興味ある話題が多い。外に、閏賀の六人衆や旧菅野村の高下・市場両村の山論書である「西山由来書」(明治二年)など稀らしい資料も登載されている。

◎本会の春季見学旅行は五月二十四日に決行致しますが行先は御期待に添いたく研究中であります。

生活改善は電化から

友沢デンキ



福原町

電一〇

本会総会報告

昨年十月二十一日日本多記念館で定時総会を開催、出席者約三十名、各報告承認の上、役員任期満了による改選にうつり、詮衡委員によつて左の方選任、総会が承認をえて決定した。

顧問	島田 清	村上 彰治
会長	井口 光司	
副会長	岸野市五郎	安井 寅一
幹事	横井 恕一	入江 静夫
	庄 和夫	藤村 省三
	宇野 正瑛	福井 政夫
	志水 富次	三木金之助
	和田 秀男	福井 託次
	志水新次郎	田中 稔
	池田 平市	岸本 正
	安井 俊二	肥塚 義彦

(敬称略)



◎堀口氏の夜泣石真説は、全くの秘話、夜泣石の原始話と
いうべく、伊織之助の墓と夜泣靈碑の写真の提供をうけ
たが、会報に載せられないのが残念です。

◎生野義挙(文久三年)も百年前になり、本郡木ノ谷で美
王・中島両氏が最後を遂げられてから、昨年十月十四日
で百年目に当ります。都合で本春あたり記念号を出した
いものです。



レストラン
大松

東鹿沢(丸通隣)
神姫バス南口辻
TEL. 44